

平成25年度第2回柴田町男女共同参画推進審議会 議事概要

【日 時】

平成26年1月23日（木） 午後3時～5時

【場 所】

柴田町役場 2階 特別会議室

【出席者】

柴田町男女共同参画推進審議会委員 7名（別紙のとおり）

事務局（柴田町まちづくり政策課） 3名

【資 料】

- ①平成25年度第2回柴田町男女共同参画推進審議会事前意見書まとめ
- ②男女共同参画推進事業「男女共同参画の視点による防災ワークショップ」資料
及び報告書
- ③第4次しばた男女共同参画プラン策定スケジュール
- ④平成25年度柴田町男女共同参画推進審議会委員名簿
- ⑤男女共同参画・多様な視点 みんなで備える防災・減災のてびき

【内 容】

進行：事務局（平間）

※審議会は公開とされているため、録音機器で協議を録音したものをもとに議事概要を作成し、町ホームページで公開する旨を説明。

【議 事】

1. 委嘱状交付

小笠原委員（みやぎ仙南農業協同組合）の人事異動に伴い、後任として平井幸一委員が新たに委員に就任されましたので、委嘱状を交付いたします。平井委員は本日欠席のため、ご紹介のみとさせていただきます。

2. 会長挨拶

明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしく申し上げます。

今日の会場に入ってきましたら、とても日差しが明るくて、燦々と光り輝く部屋で審議できることをうれしく思います。

私は、今の仕事をしながら放送大学で学びを進めておりまして、『新しい住宅の世界』というテーマで受講しています。その中で、震災後の復興住宅のこと、新しい街、そして震災を受けた人たちが、どのようにして21世紀のまちづくりを進めていくのかという内容で勉強を進めているのですが、まちづくりというのは、やはり一人ひとりの生き方や、どのようなコミュニケーションが展開されていくのかということ、しっかりした頑丈な壁を作るのではなく、一声かけ合って、一人ひとりが大事にされれば、自ずと防犯防災に強いまちづくりに繋がるのだということを、いろいろな角度から教科書の中で学んでいます。ですから、私たちが今やっている男女共同参画のこの審議会の議論は、詰めて言えば、強いまちづくりになくてはならない切り口になっているのだということを感じました。今日もまた、皆様からの忌憚のないご意見を頂戴できればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

3. 議題（議長：会長）

（1）男女共同参画推進事業「男女共同参画の視点による防災ワークショップ」の報告について

事務局説明：今年度実施した男女共同参画推進事業「男女共同の視点による防災ワークショップ」については、49名が参加し大変有意義な研修になりました。この研修成果は、町の防災担当が、地域防災計画に反映するとの考えを示しております。

<委員>

自分たちも震災を体験しているという事で、参加された皆さんも真剣に耳を傾けていました。民生委員さんや区長さん、小さいお子さまを連れた若い方もいらっしやっていました。参加者の関心は高く、これから防災に取り組んでいく地域には、とても後押しになったのではないのでしょうか。みなさんに喜んでもらえた講座になったと思います。

<委員>

皆さん活発に意見を出していました。

問題は、これをどこの地域でもいいから、まずやってみるということだと思います。たまたま、私が住む地区の女性の役員が講座に参加しておりまして、その方とも話をしました。夜の避難所や学校がどれくらい使えるのかや、たとえば男性が炊き出しをする、女性は発電機をかけるなど、そういったことについて話し合いをしたり、実際にやってみることで変えていけるのではないかと思います。

<委員>

講座の後に町の防災についての考えも話されれば、単なる講話で終わるのではなく、参加した人材と、その学びを生かそうとする町の姿勢が見え、もっと良い講座になったと思います。町長や、防災担当課長などが会場にいれば、演出効果もあって良かったし、防災に対する町の本気度が見えたと思います。したがって、講座は99点。あと1点は町の態度。参加者の中から人材を吸い上げる努力もしてほしい。

→事務局

町でも当初各課から職員の参加を検討いたしましたが、講師先生から、ワーキングをするにあたっては、やはり40人前後が良く、それ以上人数が増えるとワーキングの内容が薄くなってしまおうという心配があったので、総務課の防災担当職員のみ参加しています。講座の内容を地域防災計画に反映する考えですので、職員の参加人数は少なかったのですが、町としての意気込みはあると、ご理解いただきますようお願いいたします。

<委員>

責任のある方の出席がなかったというのが残念だという意味で、町長が一人でも、あるいは防災担当課長がいれば良かったと思います。このような特化した問題になると、非常に男女の差というのが顕著になります。ここで男女共同のあり方というのが大事になってきて、それが防災に特化されているという今回の講座を、責任のある役職の方に見てもらいたかったということです。

<委員>

どうしても男女共同参画とはいっても、女性を中心にものを考えるイメージがあり、女性の方がはるかに多く男性はわずかだとの先入観がありました、男性の参加も多くて、特にグループ討議のときには、私がいたグループの男性が、男性の視点でも積極的に意見を言っていたので、女性だけではなくて、男性の視線でも意見が十分に出たというのは、非常によかったと思います。

これからの進み方としては、男性の問題も取り上げる必要があると思います。

<委員>

男女共同参画はどうしても女性目線で物事が全部発信されて、私は常に違和感があり、どうしてもバランスを欠いてしまうことなので、これをきっかけに男性目線、女性目線という事をお互いが踏まえたうえで、理解し合って協力し合うという事が理想として、こういった防災の話から、いろいろな所へ発展してほしいと思います。

<委員>

講座に参加した方とお会いする機会があって、とても良い内容だったことを聞きました。小・中学校に行く機会があり、このようなワークショップがあったことを先生にお話ししました。各学校には防災担当の先生がいらっしゃるのですが、先生方は、このワークショップをご存じなかったもので、送っていただいた資料に目を通していただきました。

<会長>

今回はあくまでも研修の一環でという目的がありました。私もレポートを読みましたら、かなりいいものだったということで49名の参加者の方は、いろいろ発展的な視野が広がって、拍手喝采だったのだらうと思います。

研修は成功したので、今度は、もう少し町全体として取り組んで安全かどうかや、この企画は素晴らしいものだからもっと深めていこうじゃないかというのが、ここから先の我々審議会の仕事だと感じました。

(2) 平成26年度における男女共同参画推進事業について

事務局説明：平成26年度の男女共同参画推進事業について、各委員より事前にご提案
いただいておりますので、ご協議をお願いいたします。

なお、予算については、今年度と同額を予定しております。

<委員>

私は、男女共同参画社会を実現するという事は、男女問わずみんな大切にされる社会を目指すことだと思います。

自殺という問題に突き当たった時に、平成23年度の宮城県の統計では男性が全体の7割を占めています。そのうち40～50才代が半数以上です。この結果は、男女共同参画社会ではないのではないかと思い、なぜ男は自殺をするのかと考えた時に、がんじがらめの男社会がそうさせているのかと感じましたので、男女共同の中に男の視点と男の自殺者を減らすものはないのか提案します。

<委員>

今まで大人に向けて発信してきたので、少し年代を下げて、若い方に向け男女共同参画について学びを得る機会があればと思いました。各中学校ではボランティア等の特色ある活動をしているので、将来の柴田町を担う中学生を対象に男女共同の意識を持たせてはどうでしょうか。

<委員>

男性の立場を問題視することについて共感します。

仕事をリタイヤした後の男性の生活は、人生として楽しんでいけるものが見つかりにくいと言います。簡単に趣味を持ってと言われても、自分の中で湧き上がるものが見つからなければ難しいと思います。

女性の社会進出が進み、男性が宿命していたような問題も、今後は女性に起こりえますので、男性に起こる問題についても考えていく機会があればいいと思います。

<委員>

アサーティブ・コミュニケーションは、対人関係のためのライフスキルの一つで、自分がどのように感じているのかを、何を望んでいるかを、我慢するのではなく、相手を尊重しながら、率直に伝えたいことを伝える、お互いの感情や意見の違いがマイナスにならずにプラスに転換することを可能にするコミュニケーションスキルで、地域や社会、職場でも自分に自信を持って生きていく、またリーダーになっていくためには、このような人とのコミュニケーションがすごく大切だと思うので、ぜひこの講座を開催していただきたいです。

<委員>

断片的ではなくて、目的をはっきりさせた中で体系的にやっていると、結局今までの事業も生きないと思います。今回実施した防災ワークショップに付随して、最終的には防災マニュアルが生きるような、波及効果のあるものを次の講座にしないと、一回やって終わってしまうのは、凄く効果がなくてもったいないので、今回の講座に肉付けしていくっていうやり方が一番なくてはならないと思います。

今年度の事業と繋がるものであったり、関係する機関など事務局では把握していると思いますので、ある程度ピックアップして審議会にかけてほしいです。

<委員>

外国では、災害時の避難所で、みんな勝手に材料を持ってきて生活スペースを確保するそうです。日本では誰かが決まりを作るまで待つて自分で勝手にという事はありません。もしかしたら、女性ばかりがボランティアで炊き出しをしているのも日本だけで、外国では、報酬が支払われているのかもしれませんが。

震災当時に日本に住んでいて被害にあった外国の方に、日本の災害対応の良かったところ・悪かったところを話してもらう事で、今回の講演に繋げられ、柴田町の防災に生かされるのではないのでしょうか。

<会長>

今回の講習会が良かったというところから、これを具現化していくべきだと思います。公助（市町村）に依存するのではなく、自助の仕組みについて、町も地域に働きかけを行って、町の人たちが積極的に自分たちのリーダーをつくったり、団体に関与して一冊のマニュアル作成するのはいかがでしょうか。

<委員>

私の住む地区は、まだ部落という言葉を使っている地域で、その地区の中でも10数戸のグループに分けています。先の震災では誰がリーダーという事もなく、うちで炊き出しするからとか、うちは発電機あるからテレビが見れるよというように、みんなで声をかけ合い、それぞれがやれることで助け合いました。

できれば実際に部落でやった経験も意見として吸い上げられて、柴田町のモデルケースとして取り扱っていただきたいです。

<会長>

マニュアルを毎年書き換えることも大事ですね。今誰がリーダーになっているかなど、必ず2年に1回は柴田町に届けなければならないというような仕組みがあれば、街の小さなグループごとに集まって、今度は誰をリーダーにしたらいんだろうかということも話題も出ると思います。

<委員>

日頃から地域でのお付き合いをしているからこそ、いざという時もすぐ集まれると思いますが、住宅地になるとその辺は難しいのかもしれませんが。まとめ役となるリーダーを育てていく必要があると思います。

<委員>

今回のワークショップでは、男女の役割というものが見えました。

今度は、お互い補完し合える社会を作ろうという下敷きがあって、その上に災害という非日常の避難生活をするときに、それが浮き立つような事業を期待したいです。

<会長>

防災というのはやはり避けては通れないものなのかなと思います。国中を上げて次の大地震のことを想定しておりますので、事務局にはそのようなところを視野に入れて、何点かピックアップしていただきくようお願いします。

(3) 第4次しばた男女共同参画プランの策定について

事務局説明：現行の第3次しばた男女共同参画推進プラン（以下「第3次プラン」）が、平成28年3月末までの計画期間になっているため、次期計画の第4次しばた男女共同参画推進プラン（以下「第4次プラン」）をスケジュール案のとおり進めてよいか審議をお願いいたします。

審議会の所掌事務として、基本計画策定に係る調査・審議が規定されておりますので、第4次プラン策定に向けてご協力をお願いいたします。

<委員>

沢山色々な審議会をし、計画を策定し、冊子を印刷していますが、それが実際の程度生きているのでしょうか。今までなんとなくパターンでね、審議会やったら製本するということではない、新しい方法を考えるのがいいと思います。

それから、私は審議委員として公募に応じましたので、自動的に策定委員に移行するというのは困ります。

<委員>

委嘱状に任期は平成26年3月31日と書いてあるので、これが自動更新とはどこにも書いていません。

→事務局

次のその他で委員の再任についてお話ししようかと思っておりました。

審議会委員さんは今年の3月31日までの任期で、4月1日からは新たな審議会委員となりますが、このメンバーで活発な意見をいただき、第3次プランがうまく稼働していることから、事務局としては、同じ委員さんに再任いただき、もう一度4月1日から改めてお力添えいただきたくお願いしたいと考えております。

<会長>

審議会では今まで推進事業と、第3次プランの進捗について審議してきましたが、それに加えて第4次プランについても内容を審議するという事によろしいですね。

→事務局

条例に規定する審議会の業務は、計画に関する調査・審議となっております。町が第4次プランの案を作成しますので、それについてご審議くださいますようお願いいたします。

<委員>

第3次プランは、作山会長と大野委員と大沼委員が策定委員に加わっていましたが、みんな初めてで、言葉の意味も、解釈もまったくわからなく、大変でした。ですので、この流れで第4次プランの策定に取り組むのが良いと思います。

<委員>

この審議会というのは、行政がきちんと男女共同プランに基づいて仕事をしているかどうかということをチェックし、できないならば調査・研究を重ねて、審議して提言するという位置づけだと私は思っています。公募の際も建設的ではない第三者的立場で関わるものと思っていました

→事務局

町が示す案について、改善すべき点を審議し指摘していただきますので、ゼロからの作業ではありませんし、今までの審議のスタイルは変わりません。

<委員>

続けて委員になって、難しい問題でも、具体的な数値目標を加えて第4次プランに盛り込んでいくことで、男女共同の実現につながるのではないのでしょうか。

<委員>

公募は改めて行わないのですか。また、この10名というのは、現在公募が4名、学識経験者が1名、町長が特に必要と認める者5名で組織されていますが、条例に人数の割合というのはあるのですか。

→事務局

公募委員の皆様が、このままもう一度ご活躍いただけるのでしたら公募は行いません。もし、1名でも継続が難しいとなれば1名を公募します。

また、公募や町長が認める者の組織の割合については、定めがありません。

<会長>

これまでの議論したことを少し将来につなげていくために、委員の皆さんは貴重な存在ですので、もう一度考えていただいて、審議会委員としての再任に関しては事務局に意向を伝えていただくという事によろしいでしょうか。いろんな角度から意見を頂戴できる今回のメンバーはとても素晴らしいと思っております。議論が活性化しないことには、住みやすい街を作る、そして災害に強いまちづくりというのは、弱い人たちの意見をちゃんと吸い上げる仕組みを作っておかなければいけないことですので、そのような議論にしていきたいと考えております。

4. その他

本日出席いただきました報酬については2月10日の支払いを予定しています。

次回開催ですが6月頃を予定しております。日程は改めて調整したうえでご連絡させていただきます。

5. 副会長挨拶

寒い中ありがとうございました。

柴田町と柴田町教育委員会、県の保健福祉事務所から後援をいただき、児童虐待防止キャンペーンの中で「うまれる」という映画の試写会をしました。そうしたらあるお母さんがこういう事をメールで送ってきました。

『私は生きている、私が生まれる前のことも死んでしまった後のこともわからない。生きているという事はそういう事なのだと思います。けれど、確かに私は母親から生まれてきてここにいる。そして必ず死んでゆく、この映画を見て、自分が生まれてきたこと、自分が子供を産んだことが、本当に奇跡のように思いました。出産のシーンでは涙があふれました。命が生まれる瞬間がこんなにも心を動かすものだと今更驚きました。生まれた命、生まれなかった命、どちらも大切な命。こんな当たり前のことをすべての人が思い出せば、争いのない世界になるでしょう。家に帰ってから、高校2年の息子にさりげなく聞いてみた。なんでこの家に生まれてきたの？息子は笑って、楽しそうだったから。冗談で言った言葉だと分かっていますが、嬉しくてジーンとしました。ありがとう生まれてきてくれて。ありがとう生んでくれて。子どもたちにも大人たちにもみんなに観てほしい映画です。』

私はこの男女共同の関わりを持った時に、なんで今更男女共同なのか。これは西洋的な人権思想の中で日本に伝わってきたのだろうと。しかし、この映画の出産の場面を見ると、もともと私たちは動物的な生命力をもっていて、そして命を次につなげていくのはこんなにも心を動かすのか、私もすごく感動しました。ですから、原点にあるのは命の問題なのだろうと考えました。もっともっとたくましい生命力と言いますか、お母さんたちが私たちを、次のお母さんたちがまた子どもを産むというような、このような営みが、男女共同参画社会の下支えになっていると思いました。

本日は、私を含めて2年間皆さんと一緒に議論をしてまいりました。私は審議会というのは、事務局が持ってきたものを黙って聞くのが審議会だろうと思っていました。でもそれは全然審議になりません。ところがこの会は、本当にみんなで屈託のない意見をぶつけ合い、事務局は大変だったでしょうけれども、私たちの想いは伝わっただろうと思います。一応任期は今年の3月31日という事でこの会は終わりますけれど

も、先ほど事務局の方からお話があったとおり、私たちの問題意識をもっと町・役場に反映させるために、みんなで考え続けていきたいと思います。本当に今日はありがとうございました。

【本審議会の審議内容のまとめ】

- ・平成26年度の男女共同参画推進事業については、今年度の事業を次に繋げる形で事務局が何点か案をピックアップし、次回検討します。
- ・第4次プラン策定に向けては、スケジュール案に沿って事務局で案を作成し、審議会で内容を審議します。
- ・審議会委員の任期が今年度末までのため、書面により公募委員については再任の意向を確認し、その他の委員は所属に改めて次期の委員の推薦を依頼します。